

「水の神さま」を探せ！

MELON 水部会では、仙台近郊の「水の神さま」を探し出してマップにまとめる『「水の神さま」を探せプロジェクト』を立ち上げました。この企画は 2008 年度杜の都の市民環境教育・学習推進会議事業の一環である「持続可能な未来プロジェクト in 仙台」の事業として採択されました。

「水の神さま」は水にまつわる神の総称で、滝や泉、雨の神さまや水運を司る神さまもいます。人々は水の恩恵によって日々の営みができることに感謝し、川や井戸、湧水地に水神を祀ってきました。

本プロジェクトでは水にまつわる史跡、言い伝えを調べ、マップとしてまとめます。一緒に水の循環や水の大切さについて考えてみませんか？プロジェクトへの参加者を募集しています。

また、お住まいの近くに「水の神さま」があったら、出かけた折に見ついたら、ぜひその情報をお寄せください！「ここにあったよ」という情報はもちろん、デジカメや携帯電話でパシャリと現場を撮影して写メールを送っていただければなおうれしいです。詳しくは MELON のホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。たくさんの方からの情報提供をお待ちしています。

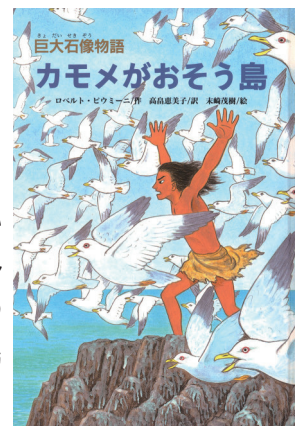


巨像の島

巨大な石像が海に向かって立ちならぶ南の小さな島。だれもが「なんのために？」「だれが？」「どうやって？」と不思議に思うことでしょう。不思議に思うその時間は、もしかしたら瞬間かもしれないけれど、まるで人間としての宝石のようなものでしょう。今なら、インターネットで「南の島」「巨大な石像」と入れれば、あるいは聞き覚えの「イースター島」などを入れてしまえば、疑問に『答えて』くれるのです…ああっ、もったいないなあ。お金もうけのために鑑定書のついた宝石をしまっておくようなものです。…もっとも、私には本物の宝石などには縁はないのですが。

動くアニメでなくても、一枚の絵をじっと見るだけでも、見るだけだからこそ想像力がわいてきますでしょう。画面がパッパと変わらなければ子どもたちの興味をひかないのではないのですよ。

ロベルト・ピウニーニ 作、高島恵美子 訳 「カモメがおそう島」(文研出版 2000 年 4 月)を読んでみましょう。小さな島のすぐれたリーダーだったトウ・エマは、そのカッコ良さをねたむ若



者に陥れられ、人の住まない島で生きていくしかかたがありませんでした。しかし、何年も経つうちに、トウ・エマの島に帰りたい気持ちと、自分を陥れた人たちへのう

らみが、島に棲んでいたカモメたちをして人間を襲う鳥に、いや自由にコントロールして人間を襲わせることのできる鳥に変えたのです。物語の最後で、トウ・エマは島へ帰ります。しかしカモメたちの襲撃はまだ続きます。この鳥たちの襲撃を防ぐために石像が作られることになるのです。

古代、イースター島には大きな木が生い茂り、石像を運ぶために十分な材料が手に入った(クライブ・ポンティング「緑の世界史(上)」、朝日選書 1994 年)が、人間が変えた環境の変化によって石像が置き去りにされたままになったということです。その間にも人と人の争いがあったでしょう。わたしたちは「温暖化」という人間が自ら招いた環境の危機を迎えています。経済の発展という巨像(虚像?)を残して人間が減びかねないのです。わたしたち自身の物語はこのイースター島の物語のように、やるせない結末をむかえないため何をすればいいのでしょうか。